

# 第1部

---

## 七ヶ浜町の まちづくりの課題





## 七ヶ浜町とは

仙台市中心部から東に約20kmに位置し、三方を太平洋と松島湾の海に囲まれ、西は仙台市、多賀城市、塩竈市と隣接する、松島湾に突き出した半島状の地形をなしています。

町土の面積は13.19km<sup>2</sup>で、町の中央部がなだらかな丘陵地帯となっており、海岸部に向けて放射状に傾斜し、起伏の変化に富んだ地形です。また、日本三景松島の一角をなし、町内の東部が県立自然公園松島の指定を受け、海岸線に沿って特別名勝「松島」の指定を受けるなど、自然環境や景観に恵まれた地域です。

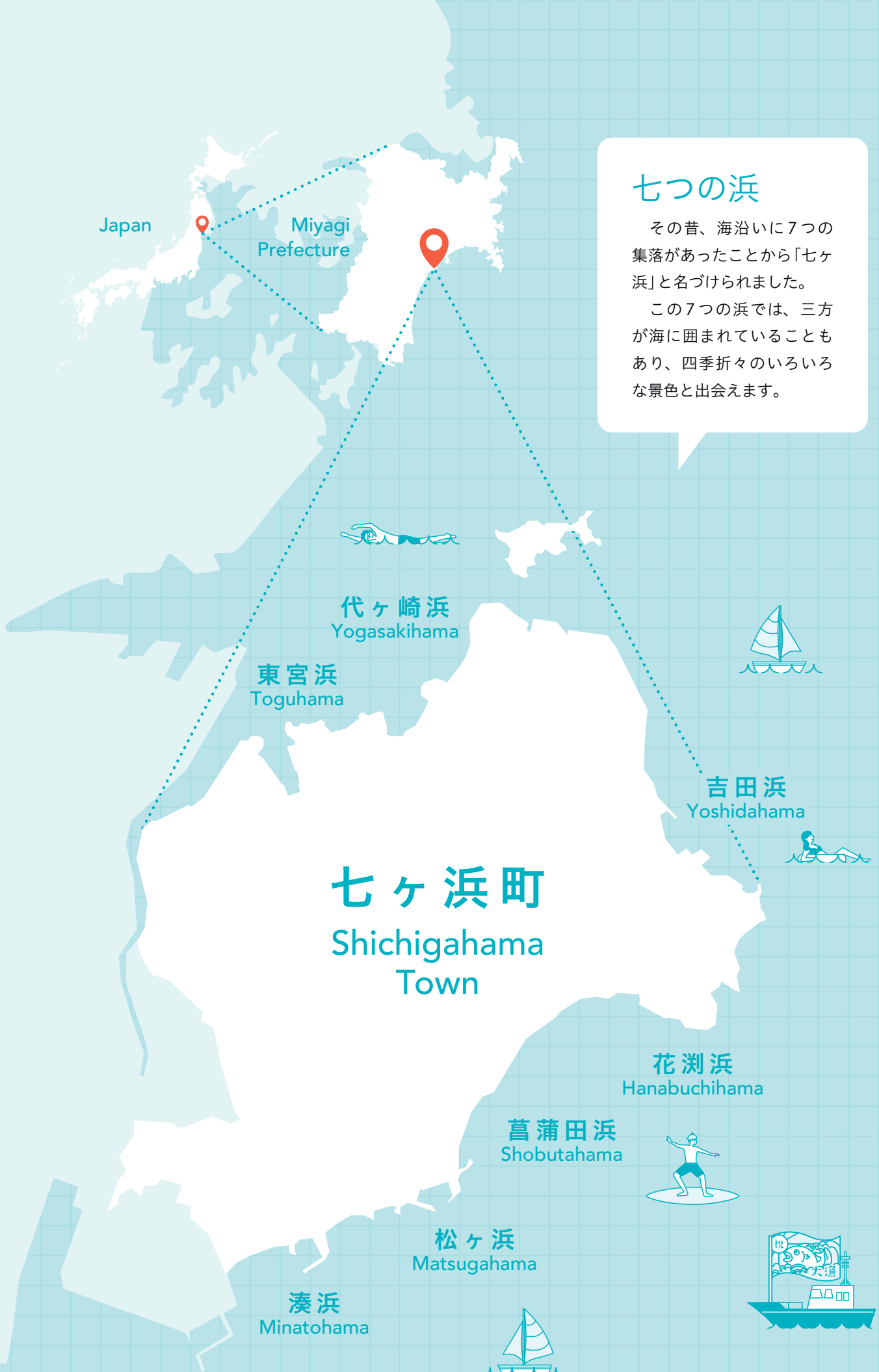
古くから海と密接に関わり、生活が営まれてきた地域でもあり、海岸部には縄文文化を今に伝える貝塚をはじめとした遺跡が多く残され、東北一の規模を誇る大木罎貝塚だいまがこいは国指定史跡に指定されています。

明治22年(1889年)に七ヶ浜村が開村し、昭和34年(1959年)に町制施行し七ヶ浜町となって以来、今日に至るまで「うみとひと」との関わりを大切にしまちづくりに努めてきました。

## 七つの浜

その昔、海沿いに7つの集落があったことから「七ヶ浜」と名づけられました。

この7つの浜では、三方が海に囲まれていることもあり、四季折々のいろいろな景色と出会えます。



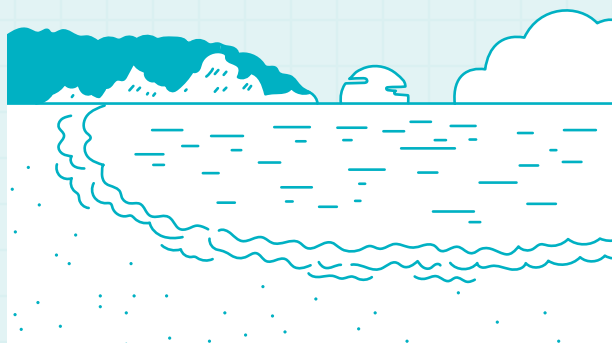
本計画の策定にあたっては、七ヶ浜町総合開発審議会や専門部会、住民満足度調査、ワークショップなどを通じ、まちづくりの課題の把握に努めてきました。さらに、昨今の異常気象や災害の多発、感染症の流行などがみられるなか、このような時代だからこそ世の中の変化を注視し対応策を講じつつ、町民が夢を描けるような将来像を模索してきました。

また、平成27年(2015年)9月に国連で採択され、世界が合意したSDGs(持続可能な開発目標)は全世界の共通課題であることから、可能な限り長期総合計画に関連づけることが社会的に求められています。



## “うみ”分野の課題

本町は、三方を海で囲まれ、古くから漁業のまちとして栄えてきました。しかしながら、近年水揚げされる魚種に変化が見られるなど、地球温暖化による海洋環境への影響が心配されています。また、将来的に持続可能な漁業・農業のあり方を考えると、地場産品の開拓が求められているほか、産業の担い手や就業機会の確保も課題となっています。



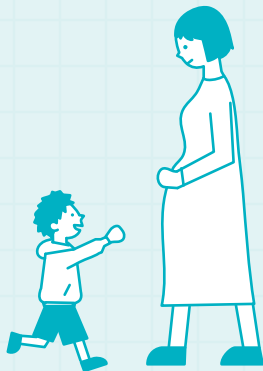
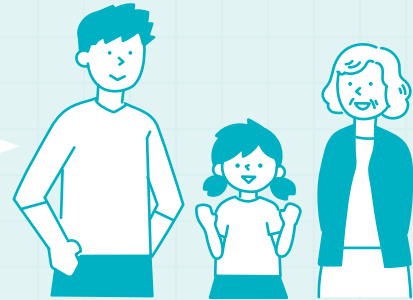
住民満足度調査やワークショップでは、「七ヶ浜町の良いところは自然豊かで風光明媚\*であること」という声が多く寄せられており、この自然環境を未来に継承していくことはとても重要です。

\*風光明媚(ふうこうめいび)…自然の風景が清らかで美しいこと。ながめがよいこと。



## “ひと”分野の課題

全国的な問題でもある人口減少社会と真剣に向き合い、少しでも人口の減少を緩やかにする施策が必要になります。また、定住化を進めていくためには、空き家や未利用地の活用がこれからの課題となります。同時に、本町のポテンシャルを活かして関係人口の拡大を進めていくことも重要です。



本町では、出生者の減少傾向と高齢化率の増加が課題となっています。本町の合計特殊出生率は全国平均を下回っており、さらに子どもを産み育てやすい事業を展開し、出生率の向上を図ることが求められています。また、今後10年で本町の高齢化率や高齢者の単身世帯が増加していくことが想定され、大規模災害などの有事の際の支援はもちろんのこと、日頃からの見守り活動の強化が課題となっています。

町民の健康づくりについては、運動不足や食生活などによる生活習慣病の増加が心配されており、健康的でいきいきと暮らすために、食生活はもとより運動不足を改善し、さらにこころのゆとりが持てるような取り組みが必要です。



本町では町民のつながりによって地域のコミュニティが発展してきました。しかし近年は、高齢化や人口減少などによる担い手不足で、町民主体の活動の持続が課題となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、今後どのように地域力を推進していくかが大きなテーマとなっています。



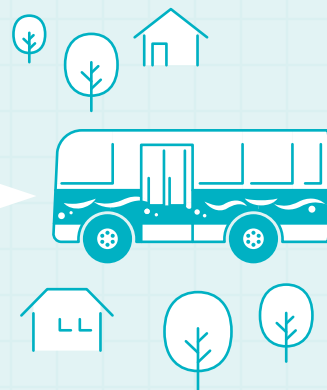
## “まち”分野の課題

本町は、平成27年国勢調査(2015年)で昼夜間人口比率\*が全国で最も低い値ではありますが、これは必ずしも弱点ではなく、むしろ本町の個性とも言える静かな住環境であるという見方もできます。しかし、特に人口が少なくなる日中の防災体制には、不安な面があります。東日本大震災からの復興事業により、インフラ整備はより強固で安全な環境を整えてきましたが、防災活動を充実していくことが今後も重要となります。



安全安心なまちづくりを推進するにあたって、感染症が発生した際には町内での流行をどのように食い止めるか、さらにその状況下で災害が発生した場合には、避難所などの収容先でいかに感染拡大を防止するかが課題となります。

高齢者の自動車事故が多発するなか、運転免許証の自主返納が少しずつ増えてきました。一方で自動車での移動手段を失うと、引きこもりにつながり、生活の質(QOL)が低下してしまうことが課題となってきます。住民満足度調査、ワークショップでは、公共交通の充実が強く求められており、高齢者のみならず、通勤、通学を含めた町民の移動手段を将来にわたって検討していく必要があります。



行政運営では、古くなった公共施設の維持管理費が課題となっており、施設の統廃合を求める声も多くなってきました。町民へのサービス維持・向上を図るためにも、さらなる行政改革を推進する必要があります。

\*昼夜間人口比率…夜間人口100人当たりの昼間人口の割合のこと。